

## 平成19年度 学校法人大阪産業大学 事業計画

平成19年度の事業計画の作成にあたっては、以下のことに留意した。

まず、学園全体の安定した財政基盤を確固たるものにするために、大学が従前もっていない体育系分野で、なお且つ社会的ニーズに対応する人間環境学部スポーツ健康系学科を設置し、受験生の掘り起こしを行う。次に、各機関における予算収容定員確保はもちろんのこと、人事政策については学園の機能向上を視座として経費節減に努めることとする。この目的を果たすため、学園の中心的業務を遂行し、マネジメント能力を要求される中核の人材については専任職員を充て、その周辺には契約職員、派遣職員等を効果的に配置する。更に雇用形態の多様化を推進しながら人件費の凍結を図る。教員の雇用についても同様であり、設置基準に定められる数は専任教員を配しながら、任期付教員、客員教員および常勤講師等、非専任教員の任用を促進するものとする。

また、校舎等整備計画では全学キャンパス整備計画委員会の審議を踏まえ、大学東部キャンパスに（仮称）自動車整備センター新築、人間環境学部スポーツ健康系学科関係では校舎兼体育館新築および第1グラウンド改修工事（半地下駐車場含む）を計画し、附属中・高校は防災関連設備等老朽化への対応、および既設校舎の改修工事、桐蔭中・高校は吹奏楽部音楽館新築工事を併せて実施する。

次に、各機関における運営面での主な取り組みを記載することとする。

### < 大学、大学院および短期大学 >

年々減少する受験生数の回復、適正入学者数の確保、離学者の減少に向けた教学内容および方法の充実・改善、学生生活サービスの向上、対応組織の完備、さらに社会的貢献度の向上に向けた施策の実現に取り組む。

### < 附属中・高校 >

校舎等の老朽化対策事業を可能にするには先ず学則定員の充足であり、近年回復を示した入学者数の増加をさらに推進すると共に、支出構成比率の高い人件費の適正化を図る。機関独立採算制の確立を念頭に置いた取り組みを鋭意推進する。

### < 桐蔭中・高校 >

西部キャンパスに本館を建設することにより、収容生徒数に見合った校舎面積を確保することができ、当面の学校運営の基盤は完成した。いずれは一拠点化に向けて検討する必要があるが、機関採算性を考え、長期的な視野で取り組むこととする。

### < 歯科学院 >

3年制移行への対応を検討したが、諸般の事情により廃止することとする。

以上が平成19年度事業計画作成にあたっての考え方であるが、具体的な新增設計画、

教育・研究上の取り組み、学生・生徒等の募集計画および校地・校舎等整備計画の内容は以下の通りである。

## ・新学部・学科等の増設計画

### 1. 大阪産業大学・同短期大学部

- (1) 人間環境学部(仮称)スポーツ健康学科 設置【平成20年度開設予定】
- (2) 人間環境学部文化環境学科、都市環境学科 名称変更関係学則変更  
【平成20年度変更予定】
- (3) 大阪産業大学短期大学部専攻科 設置 【平成20年度開設予定】

## ・教育・研究等における重点分野

### 1. 大阪産業大学・同短期大学部

#### <教育>

#### (1) プロジェクト教育の全学的導入

【大学力=学生力】「従来の教員力から新たに学生力への発想転換」

既にアントレプレナー専攻等で実施されている学生が主体となるプロジェクト教育を全学的に実施し、学生力向上による学生の満足度と社会評価向上を目指す。

平成19年度は、学生人材バンク活用プロジェクト、学生力強化プロジェクト、キャリア強化プロジェクト、学生力広報プロジェクトなど合計23のプロジェクトが発足。

#### (2) 教育支援体制の充実

平成19年4月より教育支援委員会を新たに発足させ、教育に関わる全般を総合的に検討することで、適切な教育支援体制の確立を目指す。

また、この委員会発足に伴い、従前の学習支援センター委員会、入学前教育委員会、ランゲージカフェ・スタディ・ホール委員会、FD委員会、e-ラーニング推進委員会を廃止統合。

更に、早晩に教員の教育全般のサポートと、学生への学習サポートを実施するセンター設立に向けて検討準備。

#### (3) 学科名の改称(人間環境学部の2学科)

平成20年度より、現行の「文化環境学科」を「文化コミュニケーション学科」、「都市環境学科」を「生活環境学科」にそれぞれ改称、同時にカリキュラムも全面的に改正し、イメージを一新して志願者増を目指す。尚、他学科においても必要に応じて検討を開始。

#### (4) クリエイトセンターの充実

現状の学生のものづくりの場から、学生力の向上を目指すプロジェクト教育実施の拠点として、規程の整備と適切な運営体制作りを目指す。

(5) 外部評価への対応

大学においては、平成17年度の大学基準協会による相互評価において、平成21年7月末までに提出することを求められた「改善報告書」、及び人間環境学部に関する「完成報告書」への対応を具体的に進める。短期大学においては、平成20年度に認証評価を受審すべく、自己点検・評価報告書の作成作業を実施する。また、日本技術者教育認定機構が掲げている「JABEE」の精神に基づき、工学教育の更なる充実を図る。尚、都市創造工学科においては、平成18年5月にJABEE受審の申請を行い、11月に実地審査を受けた。審査結果は平成19年6月に官報において公表される。

(6) キャリア教育の全学的な導入

結果の出る大学として、全学的支援体制の構築とキャリア強化プロジェクトの取り組みを行う。

(7) 離学問題への具体的取り組み

(8) 大阪産業大学短期大学部専攻科設置

平成20年4月開設に向けて申請予定。

**<研究>**

(1) 先端研究の推進(文部科学省の学術研究高度化事業の推進)

a) 事業名: オープン・リサーチ・センター整備事業(3年目)

【プロジェクト名】アジアの経済統合とそれがEU型共同体へ発展する可能性に関する学際的、国際的共同研究

b) 事業名: ハイテク・リサーチセンター整備事業(2年目)

【プロジェクト名】高速光情報処理デバイス構築とその応用に関する研究

c) 事業名: 社会連携研究推進事業(2年目)

【プロジェクト名】サステナブル森林保全用草木系バイオマスガス化発電装置の開発

d) 事業名: 社会連携研究推進事業(申請中)

【プロジェクト名】新たな残留有機汚染物のリスク低減を目指した地域環境の創生とゼロエミッション処理技術の開発

(2) 先端の委託研究等の推進(経済産業省等関係)

a) 事業名: 地域新生コンソーシアム研究開発事業

【プロジェクト名】三次元ナノ階層構造形成技術による高度機能部材の開発

b) 事業名: おおさかFCV(燃料電池自動車)推進事業

水素エネルギー社会実証事業の研究

c) 委託満了後の研究促進(戦略的基盤技術力強化事業、健康サービス産業創出支援事業、地域新生コンソーシアム研究開発事業、産学連携製造中核人材育成事業、地域中小企業試験・研究機器開発促進事業)

- d)平成18年度「提案公募型開発支援研究力事業」(2年目)  
事業名:ベトナムにおけるエネルギー回収型排水処理技術の共同研究
- e)平成18年度「エネルギー使用合理化技術戦略的開発事業」再委託研究(2年目)  
事業名:位置エネルギー利用のハイブリッド省エネ型エコライドシステムの研究  
開発

(3)先端研究発表会等の開催

- a)国際シンポジウム(アジア共同体研究関係他)
- b)研究発表・記念講演会
- c)公開講座(市民講座、実践講座他)

(4)産学官地域連携の促進と技術移転

- a)地域との連携(大東市産業活性化推進協議会、大東市産学官連携事業推進委員会、大東市3者連携協議会、東大阪市大学連絡協議会等への参画)
- b)企業との連携と技術コーディネーターの活用  
技術相談オフィスの開設(クリエイション・コア東大阪、けいはんな技術交流プラザ)、産学官コーディネーターの強化(全国会議の開催)、知的財産強化等

## 2.大阪産業大学附属中・高等学校

### <教育>

#### 【中学校】

(1)7年目を迎えて

1期生が高校を卒業して、大阪産業大学を始めとする様々な大学に進学を果たした。6年一貫教育の学校としての実践の経験を、今後の2期生以降の生徒への指導に活かしたい。

(2)7期生を迎えて

募集定員を下回る状況が続いたが、今年度の入試においては募集定員を充足した。この傾向を継続、拡大させるために、更に校内を活性化させる。具体的には学力の向上、イジメなどのない安心できる学校、将来に役立つ豊かな体験のできる学校作りを目指す。

#### 【高等学校】

(1)コース運営の質の向上

進学、スポーツ、特進の3コースの特色に応じた授業計画、行事の立案と運営、卒業後の進路の実現の3点を重点的に行なう。

(2)保護者、生徒との対話

昨今、建設的な対話のできにくい保護者、生徒が増えている事実に鑑みて、教職員が自らの言動を向上させると共に、三者が互いに理解しあう学校作りを目指す。

### 3. 大阪桐蔭中・高等学校

#### <教育>

中・高一貫（6ヶ年コース）で中学校より入学した生徒及び高校（3ヵ年コース）より入学の生徒を併せ、平成19年度は約2,700名となる予定。これら生徒に対し教育における重点分野は、個々の生徒・保護者が所期の目的を果たし満足して卒業いただくことの一点に尽き、このためカリキュラムの充実と指導の徹底を期する。

### 4. 大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校

#### <教育>

1年次においては、主要4科（保健指導・診療補助・う蝕予防処置・予防的歯石除去）の習得を高めるための施策と実技教科に重点を置いたカリキュラム編成を行う。

2年次には臨床実習の成果を上げるべく、各実習施設別にオリエンテーションを開催し、学生個々の習得状況の掌握に努める。

学生の修学状況については、保護者とも十分に連携を図りながら、保護者会の開催や成績郵送を定期的実施する。

## . 学生・生徒等の募集計画

### 1. 大阪産業大学・同短期大学部

#### (1) 優秀な生徒の獲得

学力の優れた生徒を獲得するよう、平成18年度から入学試験の成績優秀者に対し、授業料（教育環境充実費含む）を減免する試験制度を導入した。引き続き、この制度を継続し優秀な学生の獲得を目指す。

因みに、平成18年度の結果は、大学入試センター試験利用入試（前期日程・5教科）で授業料（4年間・教育環境充実費含む）の免除対象候補者が18人、一般前期入試（B日程）で授業料（4年間・教育環境充実費含む）の減額対象候補者が18人あった。

#### (2) AO入試の導入

本学の各学部・学科の教育内容と特色を理解した上で本学への入学を希望し、4年間教育研究活動に邁進できる強い意思のある生徒を対象としたAO入試を全学部で実施する。

導入理由は次の通りである。

- a)モチベーションの高い生徒の獲得
- b)専願で募集することによる入学者の安定確保

#### (3) 受験生および高校に対する入試広報強化

高校内説明会（出張講義含む）の積極的参加

従来、3年生を対象とした本学の概要や、入試制度の説明のみ行う高校内説明会

に参加していたが、今後は1・2年生を対象とした分野別説明会や総合説明会にも積極的に参加する。

#### 重点広報地域の設定

四国地区および山陰地区を重点広報地域とし、高校訪問や入試説明会を積極的に行い、志願者獲得を目指す。

#### オープンキャンパスの実施

7月から9月にかけて4回、年度末の3月に1回の計5回程度を予定している。本学の特色を強くアピールできる魅力あるオープンキャンパスにする。

#### 高大連携・高校単独のキャンパス見学会の積極的受入

高校単独の大学キャンパス見学会を積極的に受け入れる。また、高校と大学との高大連携教育を推進する。系列の大阪産業大学附属高校と大阪桐蔭高校、加えて地元の高校、実業科系高校を中心に構築する。

#### スポーツ系新学科の入試について

平成20年4月開設を目指し、人間環境学部にはスポーツ系新学科の設置を進めている。入試広報および入学試験等を遺漏のないよう推進する。

## 2. 大阪産業大学附属中・高等学校

中学校・高等学校共に、「教育における重点分野」を踏まえ、募集定員を堅持しつつ、定期的な塾・中学校への訪問、出張講義の要請への対応などを積極的に行い、進路指導担当者に本校の特色を理解して頂けるよう強く働きかけていく。

また、6月から下表の本校主催説明会等を開催すると共に、生徒・児童・保護者等の本校見学依頼にも全面的に対応し、本校へ志願して頂けるよう強くアピールしていく。

他に、保護者・生徒の塾・中学校・新聞社・業者主催の各種説明会への積極的な参加及び、学校広告や生徒募集広告のタイムリーな時期での掲出を実施していく。

#### 【本校主催入試説明会等の開催予定】

高 等 学 校		中 学 校	
説明会等名称	開 催 月	説明会等名称	開 催 月
塾長対象入試説明会	6月	塾長対象入試説明会	6、11月
保護者対象入試説明会	10、11、12月	保護者対象入試説明会	9、11、12月
オープンスクール	10月(2日連続開催)	オープンスクール	7、10月

## 3. 大阪桐蔭中・高等学校

中学校については、平成19年度の生徒募集人員を225名とした。結果、入学予定者は現在263名となっている。

一方、高等学校は、現在外部募集を432名としている。現在、私学志向者は中学校入試で生徒を確保する関係上、高校入試では全般的に私学の専願受験者数が減少してい

る。しかし本校では志願者が多く、中・高一貫生及び高校入学生を含め、高校では1学年約700名の体制とする。

なお、生徒募集にあたっては、中・高とも学校を「知ってもらい・理解してもらい」ことを重点として、説明会への参加・各種媒体を通じての広告など効果的な広報活動を行う。

#### 4. 大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校

早期から広報活動を展開できるよう、各媒体の広報企画に参画し、幅広い層(高校生・大学生・短大生・社会人)から資料請求者の増加を図り、志願者の確保に努めたい。

近畿圏を中心とした高等学校進路指導部には、5月から9月に亘り本校教職員による一斉訪問を行い、7月から9月に実施する本校主催の学校見学会(7回開催)の参加動員PRを展開する。

各高等学校独自の進学相談会にも積極的に参加し、学年進行による説明(高1:体験実習、高2:職業理解、高3:学校選択)により、医療専門職の底上げを図る。

### . 校地・校舎等整備計画

#### 1. 大阪産業大学・同短期大学部

整備項目等	金額(千円)	備考
(仮称)自動車整備センター新築工事	737,400	6号館跡地へ建築 埋蔵文化財調査、開発工事費含む 設計管理費は含まない 総工費:2,100,000千円
第1グラウンド整備工事 (地下駐車場付)	650,000	埋蔵文化財調査費含む 設計管理費は含まない 総工費:1,140,000千円
スポーツ健康学科校舎 兼体育館新築工事	938,000	スポーツ健康学科設置に伴う校舎 兼体育館建築 埋蔵文化財調査費含む 設計管理費は含まない 総工費:1,530,000千円
土地買収	580,000	関西電力グラウンド 上記新校舎建築に伴う用地買収
総 額	2,905,400	

## 2. 大阪産業大学附属中・高等学校

整備項目等	金額(千円)	備考
生駒研修センター風呂 改修工事	32,000	
5号館改修工事	115,000	
体育館改修工事	60,000	
総 額	207,000	

## 3. 大阪桐蔭中・高等学校

整備項目等	金額(千円)	備考
土地買収	252,000	平野屋
音楽館新築工事	150,000	埋蔵文化財調査費含む 総工費：440,000千円
総 額	402,000	

以 上